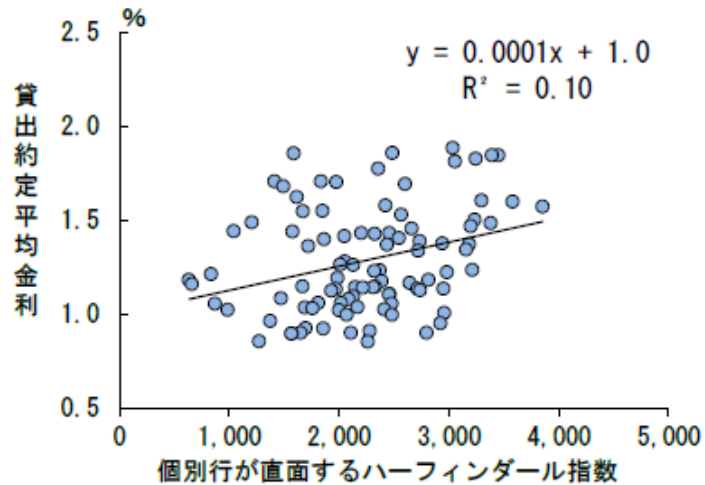
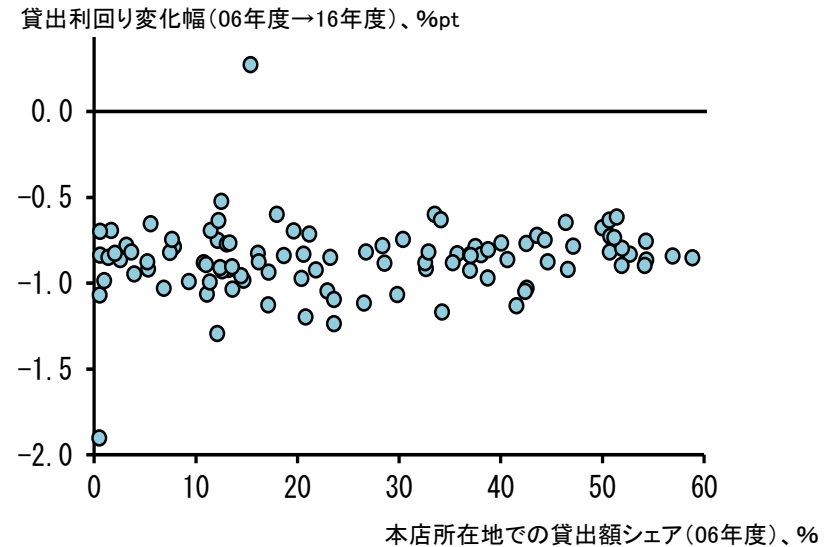


A. 日本銀行による2015年の分析



B. 日本銀行による2018年の分析

金利の水準を分析

【問題点】 相関 ≠ 因果関係

大都市やその周辺においては、進出する金融機関数が多く、寡占度が低い一方、相対的に優良企業が多い等の要因によって金利が低い可能性。

平賀一希・真鍋雅史・吉野直行「地域金融市場では、寡占度が高まると貸出金利は上がるのか」(次頁に詳細)

…単年度のクロスセクション分析では、市場集中度が高い都道府県では貸出金利が高いという結果が得られているが、経済状況が悪くリスクが高い都道府県は貸出金利が高くなり、そういった都道府県には他地域からの参入がされにくい、という逆の因果も想定できるからである。

※ 下線は金融庁

金利の変化幅を分析

【分析のポイント】

- 地域銀行の本店所在都道府県における貸出額シェアと貸出金利低下幅(10年間)の間に相関は認められない。
- 都道府県など行政区画内における貸出額シェアのみに基づいて、貸出市場における金融機関の市場支配力の有無を判断することは困難。

平賀一希・真鍋雅史・吉野直行による実証分析

「地域金融市場では、寡占度が高まると貸出金利は上がるのか」(※)

- 寡占度(ハーフィンダール指数)が、金利水準や貸出額にどのような影響を与えるかを分析。
- 失業者数等の変数により、各都道府県の経済状況の差異をコントロール。
- 時点ダミーを含めることで、(金融政策等マクロ経済環境の変化を含めた)トレンドの影響をコントロール。



- 寡占度は貸出金利に影響しない。
- 寡占度の上昇は貸出額の増加をもたらす。

※ 金融庁・金融研究センター ディスカッションペーパー(2017年1月),DP2016-5の修正版。

分析と整合的な仮説

寡占度の高まり



規模の経済性による効率化



貸出額が増加